

第6学年国語科学習指導案

日 時 平成29年11月8日(水) 6校時
 児童 男子 名 女子 名 計 名
 授業者

1 単元名 筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう


教材名 「『鳥獣戯画』を読む」他 絵と鑑賞文がかかれた図書

2 言語活動とその特徴

本単元では、絵と文章(鑑賞文⁽¹⁾)とを対照しながら読み、筆者のものの見方をとらえたうえで、自分のものの見方をまとめる言語活動を行う。この言語活動を通して、児童は絵と鑑賞文とを照らし合せながら読み、筆者が「何の・どこを」「どのように感じ」、それをどんな言葉で表現しているのかを読み取ることができる。そして、筆者と自分のものの見方や感じ方を比較して、共通点や相違点に着目しながら、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。

注

- (1) 芸術作品などを見たり聞いたり読んだりして、それが表現しようとするところをつかみとり、そのよさを味わい、それを文章にまとめたもの。(教師自作の文例)

<p>筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう 名前 ○○○○</p>	<p>【作者】 エドワルド・ムンク</p> <p>【題名】 「叫び」</p>  <p>筆者の見方・感じ方 ※参考図書より引用</p> <p>作者・題名・作品</p>	<p>【鑑賞文の筆者】 マリー・セリエ ミイラのような顔を、た人。開いた口から出た叫びがあたり一面に広がった。血のように赤い流れが空にあふれる。絵はもちろん何か叫んだりしない。けれど、本当に叫び声が聞こえてくるような感じ。がまんできかないような叫び。まじりけのない恐怖。まったくの孤独。</p> <p>エドワルド・ムンクは、胸をしめつけるほどの不安感を表現したかったのだと語っている。友人ふたりとなげなく橋の上を散歩していたときに、突然、この不安におそわれたそう。</p> <p>【鑑賞文の筆者】 ヘザー・アレグザンダー えがかれているのは、どくろのような顔の孤独な男性。恐怖にかられて口を大きくあけ、両手で頭をかかえている。この男性はムンク自身と思われる。ムンクの記事によると、この絵のイメージが頭にうかんだのは、日暮れ時に友人ふたりと歩いている、ふと手すりによりかかったときだった。ムンクはどつぜん、不安におそわれた。そして、あらゆる自然をつらぬくような叫びを聞いたという。そのとき感じた恐怖の衝撃波が、水と空を波打っているのがわかる。</p>
<p>【自分の考え】 二人のとらえ方の似ているところは、中央の人を「ミイラ」や「どくろ」というふうにし、死んでいる者のようにとらえているところ。また、中央の人が「恐怖」や「孤独」を感じているととらえている点も似ています。とらえ方の違うところは、マリーの方は、「血のように赤い流れが空にあふれる」と、空の様子だけについて述べているが、ヘザーは「水と空を波立っている」と、水の様子についても述べているところ。ぼくは、中央の人は、不安におそわれたというよりは、目の前で何か悲しい出来事が実際に起きたのではないかと思いました。例えば、後ろに描かれている海に、友達が落ちてしまったなどです。</p> <p>自分の考え</p>		

児童は、第三次において、以下の作品・鑑賞文から一つ選んで、筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめていく。

記号	A		B	
作品				
題名	農民の婚宴		富嶽三十六景より神奈川沖浪裏	
作者	ブリューゲル		葛飾北斎	
鑑賞文の筆者	アマンダ・レンショー		ヘザー・アレグザンダー	井上涼
参考図書	子どものためのアートブック		子どものための美術史	びじゅチューン!
発行所	ファイドン		西村書店	小学館
記号	C		D	
作品				
題名	夏の顔		泣く女	
作者	ジュゼッペ		ピカソ	
鑑賞文の筆者	マリー・セリエ	アマンダ・レンショー	アマンダ・レンショー	マリー・セリエ
参考図書	見てごらん! 名画だよ	子どものためのアートブック	子どものためのアートブック	見てごらん! 名画だよ
発行所	西村書店	ファイドン	ファイドン	西村書店

(参考図書)

- ・リチャード・シュラッグマン (2006) 『子どものためのアートブック その一』(株) ファイドン
- ・ヘザー・アレグザンダー (2017) 『子どものための美術史 世界の偉大な絵画と彫刻』西村書店
- ・マリー・セリエ (2007) 『観てごらん! 名画だよ』西村書店
- ・井上涼 (2016) 『びじゅチューン! DVD BOOK』(株) 小学館

3 単元について

(1) 児童について

児童は、5年「生き物は円柱形」、6年「時計の時間と心の時間」などの説明的な文章の学習において、文章の要旨をとらえたり、知識や経験と関連付けながら自分の考えを広げたり深めたりすることができてきた。しかし、筆者が、どのような感想や意見、判断や主張などを行っているのかということ、叙述を基に的確に押さえることが難しく、「確かに読む力」を高める必要がある。また、今年度の全国学力・学習状況調査の結果から、複数の資料を読み、比較や分類をしたり、関係付けたりする力の低さが示され、複数の資料を読む場面を意図的に設定する必要がある。

(2) 単元構想及び教材について

本単元は、絵と鑑賞文とを照らし合わせながら、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確しながら読んだり、友達との交流を通して自分の考えを広げたり深めたりすることができる。ただ、これまでに学習してきた説明的な文章は、実体験や科学的な事象を根拠として主張するものが多く、本単元で扱う教材文は、筆者の「ものの見方」ということで、個人の感性によるところが大きく、根拠も具体と抽象が入り混じってくるので、筆者の価値判断が表れている表現に

着目しながら読み進めていく必要がある。

第一次の1時では、共通学習材『鳥獣戯画』を読むの筆者である高畑勲氏のプロフィールや作品を紹介し、筆者や文章に興味をもたせ、学習意欲を高めさせる。また、第三次で扱う図書資料を紹介して並行読書を促したり、単元のゴールである学習シートを提示して本単元で身に付けたい力を授業者と児童とが共有したりする。そして、学活の時間を利用して、筆者が監督・脚本である「平成狸合戦ぽんぽこ」（1994年）を視聴し、筆者の世界観に浸り、筆者のものの見方をとらえるときの参考にさせる。第二次では、共通学習材『鳥獣戯画』を読むを読み、筆者のものの見方をとらえる時間と、自分の考えをまとめる時間とに分け、学習のねらいを明確にしながら授業を進める。第三次では、並行読書をしてきた図書の中から、自分が興味をもったものを選ぶ。そして、第二次で身に付けた力を生かして、絵と鑑賞文とを照らし合わせながら、筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめる。なお、本単元で学んだことは、次教材「この絵、私はこう見る」（書くこと）で生かすことができる。

(3) 指導について

「確かに読む力」を高めるために、3つの点を意識して指導にあたる。一つ目は、鑑賞文の読む視点を「何の・どこを」「どのように感じたか」の2つにして読み取らせる。二つ目は、ペアやグループ学習を取り入れ、理由や根拠を明確にしながら考えを交流することで、自分の考えを広げたり深めたりさせる。三つ目は、第三次で、共通学習材以外の資料から、複数の鑑賞文や作品を扱うことで、複数の資料を読んで比較や分類をしたり関係付けたりする力や、身に付けた力を活用する力の向上を目指す。

4 単元の指導目標

- 目的に応じ、内容や要旨をとらえ、自分の考えを明確にしながら本や文章を読もうとしている。
[国語への関心・意欲・態度]
- ◎ 目的に応じて、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むことができる。
[読むことウ]
- 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
[読むことオ]
- 文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。
[伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項イ（オ）]

5 単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・筆者のものの見方をとらえるために、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら鑑賞文を読もうとしている。	・筆者のものの見方をとらえるために、絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、どう評価しているのかを読み取り、自分の考えを明確にしながら読んでいる。(ウ) ・鑑賞文を読んで、自分と筆者のものの見方の共通点や相違点などについて発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。(オ)	・文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。 (イ(オ))

7 本時の指導 (7/8)

(1) 本時の目標

筆者が、絵を見て「何の・どこを」「どのように感じたか」を、絵と文章を照らし合わせながら読み、筆者のものの見方をとらえることができる。 (読むことウ)

(2) 本時の指導にあたって

視点1 「発問・指示」…絵と文章を照らし合わせながら、筆者が「何の・どこを」「どのように感じたか」に着目して読み取らせる。

視点2 「振り返り」…「何の・どこを」「どのように感じたか」に着目して読むと筆者のものの見方をとらえることができること(学習方法・学び方)や、筆者のものの見方(学習内容)や、次時で筆者のものの見方について自分の考えをまとめることへの意欲の高まり(学習意欲)のいずれかを書かせる。

(3) 本時の展開

時間	主な学習活動	主な発問(主◎, 補助○) 指示(・)	指導上の留意点(・) 評価(◇)
3	1 本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ絵と鑑賞文から、筆者のものの見方を読み取ります。 ◎筆者のものの見方をとらえるためには、どんな「読み取りのポイント」がありましたか。 ・課題を確認します。 	<ul style="list-style-type: none"> 第二次で学んできた「読み取りのポイント」を提示して、筆者が「何の・どこを」「どのように感じたか」に着目して読み取ることを確認させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 絵と文章を照らし合わせながら、「何の・どこを」「どのように感じたか」を読むことで、筆者のものの見方をとらえよう。 </div>			
10	2 筆者が「何の・どこを」「どのように感じたか」を読み取る。(一人学び)	<ul style="list-style-type: none"> 絵と文章を照らし合わせながら、筆者が、「何の・どこを」「どのように感じたか」に着目して、サイドラインを引いたり、絵を丸で囲んだりしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章に色分けしながらサイドラインを引かせたり、絵の部分に丸で囲ませたりすることで、絵と文章を照らし合わせて、観点に沿って読み取らせる。
10	3 交流する。(グループ)	<ul style="list-style-type: none"> 読み取ったことをグループで交流しましょう。 	「何の・どこを」…赤ペン 「どのように感じたか」…青ペン
【交流】 ねらい…筆者が「何の・どこを」「どのように感じたか」について、読み取ったことを絵と照らし合わせながら発表し、一つの考えにまとめながら、筆者のものの見方をとらえる。 形態…グループ(4人程度) 進め方…一人ずつ発表し、一つの考えにまとめる。 <「農民の婚宴」(ブリューゲル)の場合> C1:鑑賞文のこの文章から(文章を指差しながら)、筆者が、花嫁の表情を「ほほえんでいる」ととらえていることが分かります。絵も(絵を指差しながら)、花嫁の口や目が笑っているように描かれています。 C2:私も同じです。あと、鑑賞文のこの文章から(文章を指差しながら)、筆者が、農民の服装を見て、「寒い季節」ととらえていることが分かります。絵も(絵を指差しながら)、農民たちが、みんな、頭にぼうしや、スカーフをかぶっています。 広げ方…全体の学び合いで、リーダーが発表する。		◇[読む] 筆者が、絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、絵をどう評価しているかについて、絵と鑑賞文を対照させながら読み取ることができる。 【配慮の必要な児童への支援】 ・3つの観点を同時に読み取ることが難しい児童には、まず、「何を・どこを」にあたる部分から読み取らせる。	

5	4 読み取りの一例を知る。	<ul style="list-style-type: none"> 先生と自分達の読み取ったことを比べてみましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> プリントを配付し、読み取りの一例を紹介し、自分達の読み取ったことと比べる。
10	5 発表し合う。(全体) ※各グループ3分程度	<ul style="list-style-type: none"> 各グループで読み取ったことを発表してもらいます。 発表するときには、筆者のものの見方が分かる文を示したり、絵の部分を指差したりしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> 第1次から、4種類の絵や鑑賞文を並行読書させることで、他のグループの発表も興味をもって聞くことができるようにさせる。
8	6 本時を振り返る。 (1) 振り返りをまとめる。 (2) 振り返りを交流する。	<p>◎次の観点に沿って振り返りをしましょう。</p> <p>【どう学んだのか (方法)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「何の・どこを」「どのように感じたか」に着目して読むと、筆者のものの見方をとらえることができることよき <p>【何を学んだか (内容)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者のものの見方についての感想 <p>【次、頑張りたいこと (意欲・活用)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 筆者のものの見方について、自分の考えをまとめることへの意欲の高まり 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りの観点を3つ提示し、いずれかについて書かせる。

8 板書計画

◎ (学習) Aグループ→Bグループ→Cグループ→Dグループ

◎ (ま) (学習シートのサイドラインや書き込みをもってまとめとする。)

◎ (さ) 【どう学んだか (方法)】…読み取りポイントについて

◎ (し) 【何を学んだか (内容)】…筆者の見方について

◎ (じ) 【次、がんばりたいこと (意欲・活用)】…次の学習について

◎ 筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめよう

『鳥獣戯画』を読む

高畑 勲

◎ ① 絵と文章を照らし合わせながら、「何の・どこを」「どのように感じたか」を読むことで、筆者のものの見方をとらえよう。

◎ ① 【読み取りポイント】

① 「何の・どこを」…赤ペン

② 「どのように感じたか」…青ペン

◎ ② 思い出そう

6 単元の指導計画（全8時間扱い）

【指導目標】 ○筆者のものの見方をとらえるために、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしなが鑑賞文を読もうとしている。 [国語への関心・意欲・態度] ◎筆者のものの見方をとらえるために、絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、どう評価しているのかを読み取り、自分の考えを明確にしなが読んでいます。 [読むこと(1)ウ] ○鑑賞文を読んで、自分と筆者のものの見方の共通点や相違点などについて発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 [読むこと(1)オ] ○文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。 [伝国(1)イ(オ)]	展開	第1次 単元の導入		第2次 単元の展開			第3次 単元のまとめ	
		1	2	3・4	5	6	7 本時	8
【指導目標】 ○筆者のものの見方をとらえるために、事実と感想、意見などの関係を押さえ、自分の考えを明確にしなが鑑賞文を読もうとしている。 [国語への関心・意欲・態度] ◎筆者のものの見方をとらえるために、絵のどの部分を取り上げ、何に着目し、どう評価しているのかを読み取り、自分の考えを明確にしなが読んでいます。 [読むこと(1)ウ] ○鑑賞文を読んで、自分と筆者のものの見方の共通点や相違点などについて発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 [読むこと(1)オ] ○文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。 [伝国(1)イ(オ)]	目標 [指導事項]	筆者について知ったり、絵を最初に見た自分の感じ方と文章を比べて読んだりして、筆者のものの見方に対して関心をもとうとしている。 [関心・意欲・態度]	筆者が、絵の描き方や絵巻物について、どんな感じ方や評価をしているか、絵と文章を照らし合わせなが読み取ることができる。 [読(1)ウ]	『鳥獣戯画』の絵について、自分の考えをまとめて発表し合い、考えを広げたり深めたりすることができる。 [読(1)ウ・オ]	考えを効果的に伝えるための表現や構成について考えることができる。 [伝国(1)イ(オ)]	筆者が、絵の描き方について、どんな感じ方や評価をしているか、絵と文章を照らし合わせなが読み取ることができる。 [読(1)ウ]	自分が選んだ絵や鑑賞文について、自分の考えをまとめて発表し合い、考えを広げたり深めたりすることができる。 [読(1)ウ・オ]	
○鑑賞文を読んで、自分と筆者のものの見方の共通点や相違点などについて発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりしている。 [読むこと(1)オ] ○文末表現や助詞の使い方など、語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。 [伝国(1)イ(オ)]	学習課題	高畑勲さんや『鳥獣戯画』について知り、学習の見通しをもとう。	『『鳥獣戯画』を読む』を読み、感想を書いて、筆者のものの見方に興味をもとう。	絵と文章を照らし合わせなが、「何の・どこを」「どのように感じたか」を読むことで、筆者のものの見方をとらえよう。	筆者と自分のものの見方を比べ、自分が考えたことを友達に伝え、考えを深めたり広げたりしよう。	筆者が、自分のものの見方を読者に伝えるために、表現や構成で工夫していることを見つけよう。	絵と文章を照らし合わせなが、「何の・どこを」「どのように感じたか」を読むことで、筆者のものの見方をとらえよう。	筆者と自分のものの見方を比べ、自分が考えたことを友達に伝え、考えを深めたり広げたりしよう。
【指導方法の工夫】 焦点化 ○学習場面ごとに読み取る範囲を限定し、思考が分散しないようにさせる。 ○筆者が、「誰の」(兎・蛙)、「どこを」(形、大きさ、色、格好)、「どのように感じたか」(評価)、と視点を明確にして読み取らせる。 視覚化 ○絵と鑑賞文を掲示することで、照らし合わせて読みやすくさせる。 ○板書と学習シートの構成をそろえ、書きやすくさせる。 交流 ○考えを発表し合い、見方や感じ方の共通点や相違点を明らかにし、自分の考えを広げたり深めたりさせる。	本時の展開 （主な発問・指示）	1 「平成狸合戦ぽんぽこ」等のポスターを見せながこれらの作品を知っていますか。 2 この作品を作った高畑勲さんが、今日から学習する『『鳥獣戯画』を読む』の筆者です。 3 課題を確認します。 4 高畑勲さんや『鳥獣戯画』について紹介します。(説明) 5 (教科書P137の挿絵を見せなが)この絵を見てください。 6 この絵を見て、気づいたり感じたりしたことを学習シートに書きましょう。	1 前回は、高畑さんや『鳥獣戯画』について紹介しました。 2 課題を確認します。 3 先生が『『鳥獣戯画』を読む』を読むので、筆者が、この絵を、どのように感じているかに注意しながら聞きましょう。 4 感想を学習シートに書きましょう。	1 『鳥獣戯画』の挿絵と文章から、筆者のものの見方を読み取ります。 2 課題を確認します。 3 絵と文章を照らし合わせなが、「何の・どこを」「どのように感じたか」に着目して、サイドラインを引いたり、絵を丸で囲んだりしましょう。(一人学び) 4 読み取ったことをグループで交流しましょう。	1 高畑勲さんと自分のものの見方を比べます。 2 課題を確認します。 3 高畑勲さんと自分のものの見方の共通点や相違点を見つけて、自分の考えをまとめましょう。 4 自分の考えをグループで交流しましょう。	1 筆者が、自分のものの見方を読者に伝えるために、表現や構成で工夫していることがあります。 2 課題を確認します。 3 「書き出しの工夫」「文末の工夫」「絵の出し方」「絵巻物の説明に、漫画やアニメを出した理由」「その他の工夫」について、見つけよう。	1 自分が選んだ絵と鑑賞文から、筆者のものの見方を読み取ります。 2 課題を確認します。 3 絵と文章を照らし合わせなが、「何の・どこを」「どのように感じたか」に着目して、サイドラインを引いたり、絵を丸で囲んだりしましょう。(一人学び) 4 読み取ったことをグループで交流しましょう。	1 筆者と自分のものの見方を比べます。 2 課題を確認します。 3 筆者と自分のものの見方の共通点や相違点を見つけて、自分の考えをまとめましょう。 4 自分の考えをグループで交流しましょう。
○絵と鑑賞文を掲示することで、照らし合わせて読みやすくさせる。 ○板書と学習シートの構成をそろえ、書きやすくさせる。 交流 ○考えを発表し合い、見方や感じ方の共通点や相違点を明らかにし、自分の考えを広げたり深めたりさせる。		交流のねらい	教科書P137の挿絵を見て、気づいたり感じたりしたことを自由に発表し、人によって見方や感じ方が違うことに気づく。 ＜グループ＞	感想を交流し、友達が、筆者の見方や感じ方を、どうとらえているのかを知る。 ＜グループ＞	高畑勲さんが「何の・どこを」「どのように感じたか」について、読み取ったことを絵と照らし合わせなが発表し、一つの考えにまとめる。 ＜グループ＞	高畑勲さんと自分のものの見方の共通点や相違点を発表し、人によって見方や感じ方が違うことに気づく。 ＜グループ＞	表現や構成の工夫について、見つけたことを発表する。 ＜グループ＞	筆者が「何の・どこを」「どのように感じたか」について、読み取ったことを絵と照らし合わせなが発表し、一つの考えにまとめる。 ＜グループ＞
(単元を貫く言語活動) 絵と文章とを対照しなが読み、筆者のものの見方を捉えうえで、自分のものの見方をまとめる。 ※参考 [読 言語活動例(イ)]	本時の展開 （主な発問・指示）	7 (図書資料から複数の絵を見せなが)単元の後半で、これらの絵の中から一つ選び、その絵の鑑賞文を読みます。そして、筆者のものの見方をとらえ、自分の考えをまとめて発表し合います。今からどの絵を選ぶのか考えておいてください。 8 振り返りをします。「振り返りの3つの視点」(「どう学んだか」「何を学んだか」「次、がんばりたいこと」)について書きましょう。 9 次に学習することを確認します。	5 筆者が、兎や蛙をどうとらえているのか、詳しく読み取りたくなってきましたね。 6 振り返りをします。 ※「振り返りの3つの視点」について 7 振り返りを交流します。 8 次に学習することを確認します。	5 先生と自分達の読み取ったことを比べてみましょう。 6 各グループで読み取ったことを発表してもらいます。 7 振り返りをします。 ※「振り返りの3つの視点」について 8 振り返りを交流します。 9 次に学習することを確認します。	5 まとめます。友達の発表を聞いて、同じような見方をしたりするところについて書きましょう。 6 振り返りをします。 ※「振り返りの3つの視点」について 7 振り返りを交流します。 8 次に学習することを確認します。	5 表現や構成の工夫で見つけたことを発表しましょう。 6 実は、他にもこんな工夫があります。※児童から出なかった場合 7 振り返りをします。 ※「振り返りの3つの視点」について 8 振り返りを交流します。 9 次に学習することを確認します。	5 先生と自分達の読み取ったことを比べてみましょう。 6 各グループで読み取ったことを発表してもらいます。 7 振り返りをします。 ※「振り返りの3つの視点」について 8 振り返りを交流します。 9 次に学習することを確認します。	5 まとめます。友達の発表を聞いて、同じような見方をしたりするところについて書きましょう。 6 振り返りをします。 ※「振り返りの3つの視点」について 7 振り返りを交流します。
【図書利用】 ・『子どものためのアートブック』(ファイドン:アマンダ・レンショー) ・『見てごらん!名画だよ』(西村書店:マリー・セリエ) ・『子どものための美術史』(西村書店:アレグザンダー) ・『びじゅチューン!DVD BOOK』(小学館:井上涼)		指示						

